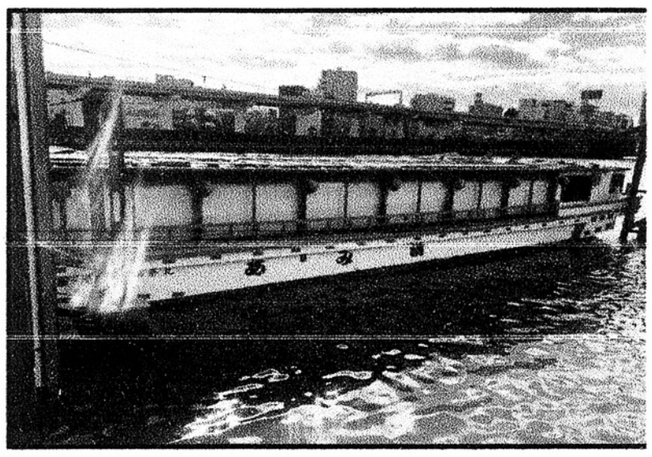
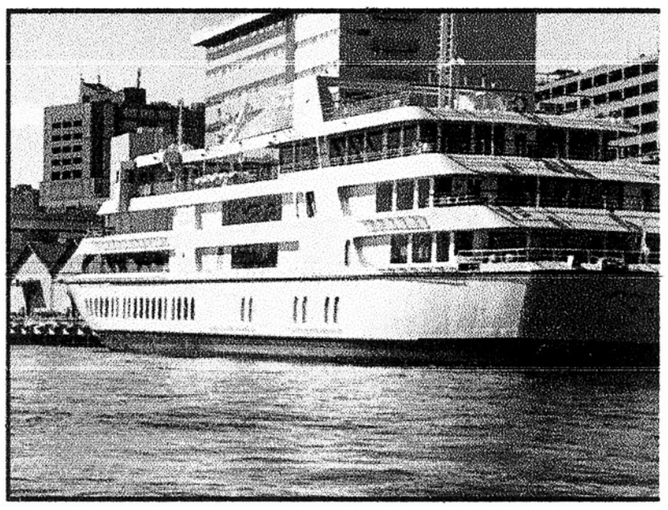
時代の変化と海事観光

桜陽新聞

＜発行元＞
1年C組7番
奥野真衣



屋形船



遊覧船

「**屋形船**」、「**遊覧船**」、「**水上バス**」などといった船は、きっと誰しもが耳にしたことがあるだろう。実際に乗船したことがあるという人も多いのではないだろうか。今回は、海事産業という大きなテーマの中でも特に**海事観光**にスポットをあてて調査を行った。

今回私が調査したのは、最近「観光」の面で高い人気を集めている水上バスだ。水上バスの特徴としては、基本的に複数の地点間を往復する船舶であるという点があげられる。遊覧船と比べて安価な値段で気軽に水上の観光を楽しめるのも人気の理由の一つだろう。

◎観光先進国への道のり

二〇一八年、海事観光分野での取り組みをさらに加速化し、観光先進国の実現への貢献を果たすため、海事局に『**海事観光戦略実行推進本部**』が設置された。本部は、海事分野の特性を活かした様々な手法で地方からの誘客や多様な魅力の発信を行っていく方針だ。先に例に挙げた三種類を含める多種多様な船たちは、日本の海事観光業界の未来を託された重要な存在なのだ。

◎水上バスの歴史

☆歴史のはじまり

ある研究論文によると、東京において初めて開かれた水上バスの定期航路は**浅草～両国**間で、それは一八八五年のことであったそうだ。当時、水上バスの利用料金が一銭だったことから、「**一銭蒸気**」という愛用で親しまれていたという。しかし第2次世界大戦後、空襲などによる被災を受けて、戦争前の船はほとんど壊滅的な状態だった。そして一九五〇年に、ようやく「東京水上バス」として復活を果たした。

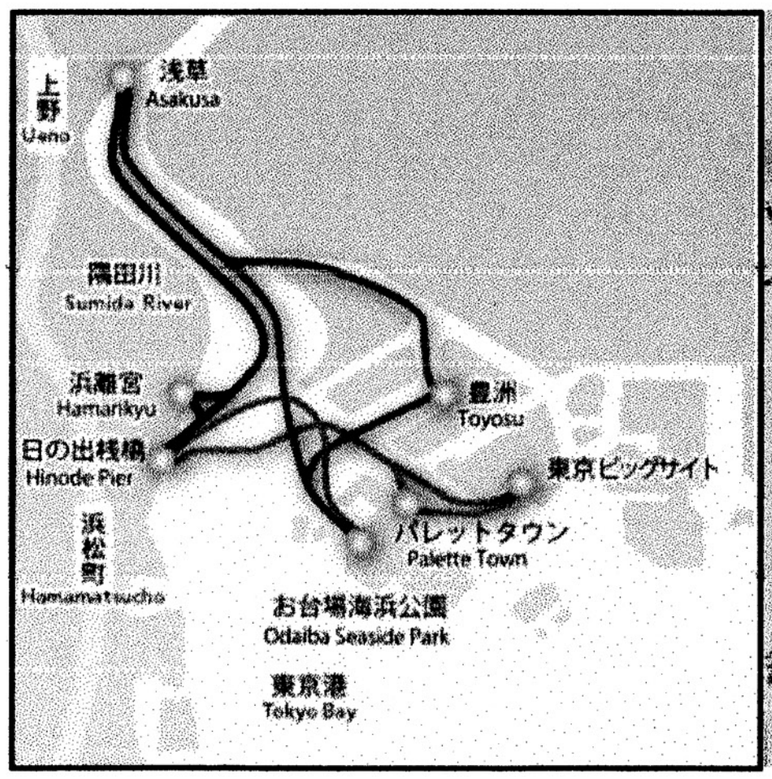
☆時代の変化とともに

しかし、高度経済成長に伴う水質汚染が一九七〇年代に改善されるまで、悪臭の影響で乗客は減少。すると、徐々に回復していく水質とともに、水上バスの利用用途にも少しずつ変化が見られるようになる。それまでは「**交通手段**」の一つとして利用されていた水上バスだが、水質とともに景観も改善され、「海事観光」の面でも多くの人々に利用されるようになった。

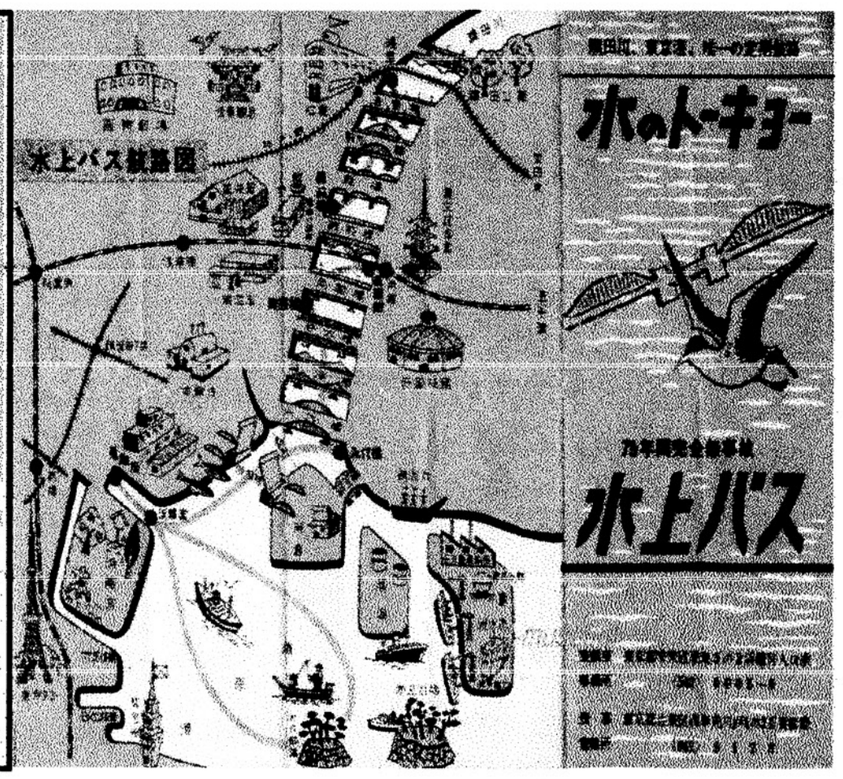
☆魅力を伝えるために

一九八〇年代、**ウォーターフロントブーム**が水上バスの人気を後押しし、公共機関による運営が始まる。（ウォーターフロントブームとは、河岸・海岸通の土地の再開発を行う都市開発のうちの一つのことを指す）それまで運行されていたコースも、観光面のことを考えて見直され、大きく改善された。

これらはどちらも浅草発の水上バスの航路図であり、右側が改善前、左側が改善後のものになっている。水上バスは、本来の「交通手段」という目的のほかに「観光」だけでなく、少しずつ航路を変えつつも「**伝統**」という魅力を繋ぐ**日本の文化**の一つとして、今も愛され続けている。



新航路図



旧航路図

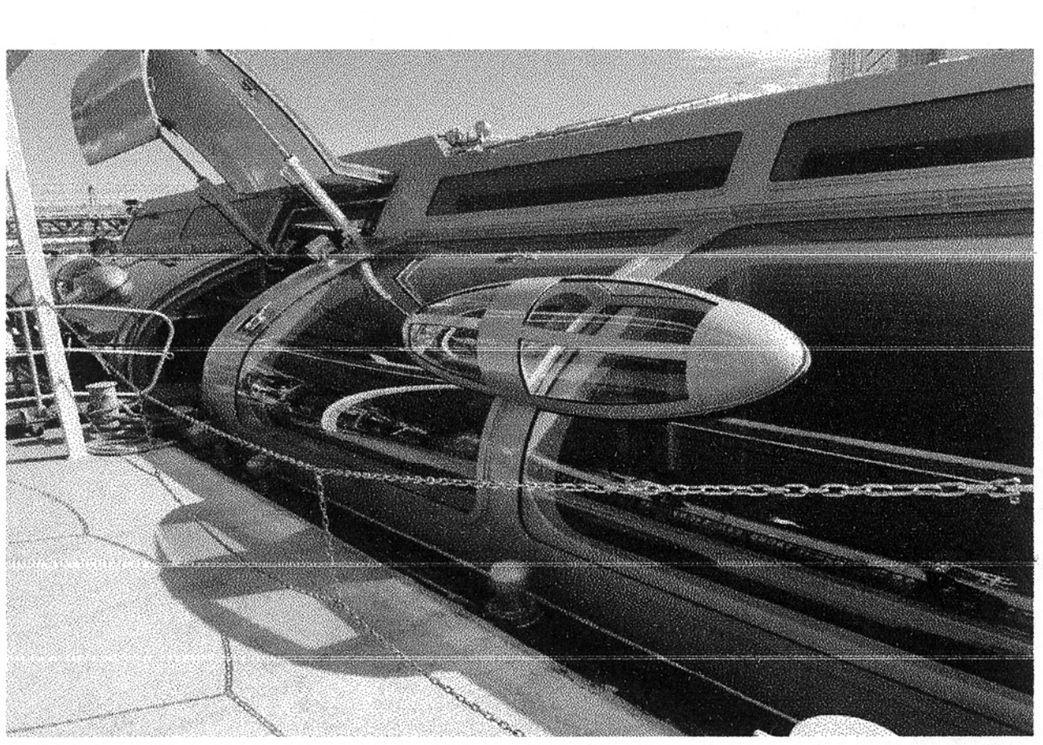
◉いざ、浅草へ…！

水上バス　ホタルナ

遊覧船にたくさんの種類があるように、水上バスにも多種多様な姿がある。実際にその姿を見るため、そして乗客の視点から水上バスでの船旅を分析するために、浅草の水上バス乗り場へと足を運んだ。乗り場の受付は午前九時四十五分から始まり、十時には最初の便が出発する。公式サイトからのチケットの予約も可能なので、乗船したい時間が決まっている場合はインターネット予約を利用した方が確実だろう。今回私は、午前十時発の**浅草～日の出桟橋**の「**ホタルナ**」という種類の便に当日チケットを購入して乗船した。船内の様子は、左の写真の通りである。

船内の様子

ホタルナの他にも「**エメラルダス**」「**ヒミコ**」「**竜馬**」「**リバータウン**」など**合計十二種類**の船があり、どの船も特徴的なデザインで乗客を魅了する。そのうちホタルナ、ヒミコ、エメラルダスの三種は「宇宙戦艦ヤマト」や「銀河鉄道999」などの人気漫画・アニメの作者である**松本零士先生**がデザインを手掛けた。「子供が乗ってみたいと思ってくれる船」という言葉をテーマにデザインされたそうだ。私が乗船したホタルナの船内では、「銀河鉄道999」に登場するキャラクターたちが窓の外の景色や前方に見える橋の歴史について解説をする。原作を知らない人でも、その作品の世界観に浸ってしまうくらい素敵な空間だった。ホタルナは船内で購入できるソフトドリンクやお酒、アイスも楽しむことができる。



ホタルナ　乗り場入口

～船員さんにインタビュー～

Q1：どのような人が水上バスを利用することが多いですか？

A1：家族連れ、外国人の方が多いです。

Q2：1日あたりおよそ何人の方が乗船していますか？

A2：特に休日はどの便も満席に近いことが多く、一日およそ六百～七百人のお客様がいらっしゃいます。

Q3：この仕事にやりがいを感じる時はどんな時ですか？

A3：お客様に「ありがとう」と言っていただけた時です。

Q4：では、逆に大変だということはありますか？

A4：いろんな人の立場に立って何かを伝えることです。人間相手の仕事ですから、正解などありませんし一人一人物事の感じ方が違うことを意識しながら丁寧な対応を心がけています。

船員のT.さんにご協力いただきました。ありがとうございました。

◉編集後記

ただ書籍や論文を参考にしながら事実を述べていく新聞ではなく、実際に現地に足を運んで取材し、そこで働く人の「生の声」を聞いて新聞にするといった作業がとても大切なのだということに改めて気づかされた。また、取材を行ったことでさらにこの海事観光分野において自分の興味を深めることができた。水上バスに限らず、日本の海事産業にはそれぞれに魅力的な部分がある。この新聞を通して、私はそれをもっとたくさんの人々に知ってほしい。自分の興味のなかった分野まで調査してみることで新たな発見から興味が生まれるかも知れないからである。